

1 講座名・定員など

(1) 授業科目

科目名	担当	実施 時期	曜日	時限	定員	備考
表現活動（応用）	狩野 浩二 他	後期	金曜	3限	若干名	1限 9:00～10:30 2限 10:40～12:10 3限 13:00～14:30 4限 14:40～16:10 5限 16:20～17:50
認知心理学	池田 まさみ		水曜	3限		
食文化論	山本 茂		水曜	1限		
食品機能論	中村 禎子		月曜	1限		
障害者福祉論	人見 優子		月曜	2限		
地域福祉論Ⅱ	佐藤 陽		水曜	2限		
ソーシャルワーク論Ⅲ	大山 博幸		木曜	2限		
社会福祉概論Ⅱ	宮内 寿彦		火曜	3限		
高齢者に対する支援と 介護保険制度Ⅰ	富井 友子		水曜	1限		
手話	谷 千春		水曜	1限		
生活と情報	大友 由紀子		水曜	2限		
インターネットビジネス	込江 雅彦		水曜	2限		
健康食育論	徳野 裕子		火曜	1限		
生活とメディア	安達 一寿		月曜	3限		
映像表現論	川瀬 基寛		火曜	2限		
地域メディア論	石野 榮一		火曜	4限		
日本文学史C	小林 実		月曜	4限		
日本語音声学	松永 修一		水曜	4限		
日本文学研究A	赤間 恵都子	月曜	2限			
女性と文化	加藤 暁子	火曜	4限			
文芸文化概論	落合 真裕	水曜	1限			

※各科目とも授業は15回の予定です。

※授業は9月13日（金）から開始しますが、一部変則的な取り扱いがあります。

(2) 場所

十文字学園女子大学

〒352-8510 新座市菅沢 2-1-28

[アクセス方法]

- JR 武蔵野線新座駅下車、徒歩 8 分
- 東武東上線「志木駅」発「清瀬駅」行きバス
- 西武池袋線「清瀬駅」発「志木駅」行きバスともにオリエンタル酵母工業前下車、徒歩 5 分



※駐車場のご用意が出来ませんので公共の交通機関でのご来校をお願いいたします。

2 受講料等

(1) 受講料 1 科目 (半期) につき 10,000 円

(2) その他 教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます。

(講義概要に教科書についての記載がない場合も、必要になる場合があります。詳しくは第 1 回目の授業で担当教員から説明があります。)

※一旦納入された受講料につきましては、お返しすることができませんので、あらかじめご了承ください。

3 受講の申込み

(1) 申込期限 令和元年 8 月 24 日 (土) (消印有効)

(2) 申込先

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢 2-1-28

十文字学園女子大学 地域連携推進課

電話: 048-477-0958 (直通)

(3) 申込方法

往復はがきに以下の事項をもれなく記入の上、郵送でお申込みください。

(1) 住所

ふりがな

(2) 氏名

(3) 性別

(4) 年齢 (平成 31 年 4 月 1 日現在)

(5) 電話番号

(6) 受講希望科目・担当教員名 (何科目でも可)

(4) 選抜方法

定員を超える場合または多数の申込みがあった場合には、抽選により受講者を決定します。(受講の可否、受講決定科目は申込者全員にお知らせします。)

4 各授業科目の概要及び担当教員

<p>表現活動（応用） （狩野 浩二 教授・ 久保田 葉子 講師）</p>	<p>将来、小学校教員を目指す学生（1年次）向けに開講します。前期の「基礎」を未受講でも参加可能です。学生とともに、総合表現「かたくりの花（横須賀薫作詞、梶山正人作曲、一莖書房）」を練習し、発表（地元小学校等）します。朗読や歌唱、身体表現の楽しさを味わいます。教材はプリントして配布します。</p>
<p>認知心理学 （池田 まさみ 教授）</p>	<p>私たち人間は、外界のさまざまな刺激や情報を脳で処理することで何らかの反応や行動に至っています。本講義では、その情報処理のプロセス（記憶、注意、思考等の認知機能）について、心理学的なモデルや理論を平易に解説します。映像や実験デモを通して体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指します。</p>
<p>食文化論 （山本 茂 教授）</p>	<p>地域・国に存在する食文化と健康の問題について、過去の報告を洗い出し、なぜ成功したか、成功していないかを解析し、改善策について考えます。</p>
<p>食品機能論 （中村 禎子 教授）</p>	<p>食品の機能性の探索や機能性を具備した食品開発は、我が国のみならず国際的にも関心が高い分野です。食品の機能性はその安全性を同時に考える必要があります。本講義では、具体的な実験データなどを提示して食品の機能性と生活習慣病を中心とする疾病との関連性を概説します。また、リスク分析を学び、食品の安全性と機能性の理解を深め、自ら判断する力を身につけられるように学習します。</p>
<p>障害者福祉論 （人見 優子 准教授）</p>	<p>障害のある人々の施策の発展過程と現在の障害者施策、生活実態について学びます。授業を通して、共生社会を目指すことの意味や心のバリアフリーについて考えていきます。 テキストは『障害者への支援と障害者自立支援制度』（みらい社）を使用します。</p>
<p>地域福祉論Ⅱ （佐藤 陽 教授）</p>	<p>本論は地域福祉論Ⅰを踏まえ、地域で安心して暮らし続けられるよう支え合うことについて、地域福祉に関する施策や実践から、その考え方と推進方法について学び、地域共生社会の実現に向けて取り組む姿勢を養います。購入いただく教科書はありません。</p>
<p>ソーシャルワーク論Ⅲ （大山 博幸 准教授）</p>	<p>ソーシャルワークを実際に行っていくための、基本的考え方を理解することを目的とします。ソーシャルワークの理論的背景となるシステム論、及び、個別ソーシャルワークにおける面接技術やその援助過程一般について学びます。</p>
<p>社会福祉概論Ⅱ （宮内 寿彦 教授）</p>	<p>少子高齢化、人口減少社会から、我が国の福祉政策について学びます。 【主要テーマ】社会福祉関係法制度、福祉政策の課題、構成要素、関連政策 【テキスト】第3版 『現代社会と福祉』弘文堂</p>
<p>高齢者に対する支援と 介護保険制度Ⅰ （富井 友子 講師）</p>	<p>介護保険制度を中心に、高齢者の生活を支援する制度や制度の歴史の変遷を学びます。「高齢者」を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉えた上で、高齢者福祉に関して考えていきます。なお、ご購入頂く教科書はありません。</p>

<p>手話 (谷 千春 講師)</p>	<p>聴覚障がいについて多角的に学び、手話を中心に、聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。 【推薦書】『実用手話ハンドブック』（新星出版） 【参考図書】『ゼロからわかる手話入門』（主婦の友社）</p>
<p>生活と情報 (大友 由紀子 教授)</p>	<p>テレビ、新聞・雑誌、インターネット等で報道される生活関連のニュース（人口減少、高齢化、ジェンダー、グローバル化、格差、労働、余暇、地域、環境、エネルギー他）を取り上げ、官庁統計・世論調査、主要な民間統計のデータを使って解説します。膨大な情報の中から有用な情報を選択して活用する力を習得します。</p>
<p>インターネットビジネス (込江 雅彦 准教授)</p>	<p>インターネット上におけるビジネスについて様々な視点から講義します。最近流行のタブレット端末、情報通信産業、電子商取引、Webでのマーケティング、SNSを活用したビジネスなどを取り上げます。</p>
<p>健康食育論 (徳野 裕子 准教授)</p>	<p>WHO 憲章で健康とは、「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義します。健康を維持・増進するために必要な食育について、様々な方面から考えます。特に、女性が健康を維持するために必要な食育について取り上げます。</p>
<p>生活とメディア (安達 一寿 教授)</p>	<p>地理的な境界を越え、時間的、空間的制約なしに情報がネットワーク化され、情報の量と速度は飛躍的に増大し、情報はメディアを通して、我々の生活の中にも良い面・悪い面も含め浸透しています。本科目では、メディアは生活をどのように変えたかをテーマにソーシャルメディアなどの新しい活用と影響などについて理解を深めます。</p>
<p>映像表現論 (川瀬 基寛 教授)</p>	<p>映像メディアに関する技術・表現手法・映像コンテンツの捉え方を学びます。映像作品などを鑑賞し視点を変えることで、映像メディアの原理や映像技術の発達について学び、映画の文法や手法、映像表現の特徴や可能性を探究していきます。日本ならびに諸外国における様々な映像作品（映画・ドキュメンタリー・ミュージックビデオ・ビデオアート・CG・アニメーションなど）を通じて映像リテラシーを高め理解力を養います。</p>
<p>地域メディア論 (石野 榮一 教授)</p>	<p>情報化が進む中で限定したエリアを対象にした「地域メディア」があります。日々の生活とどのようにかかわっているのか、地域メディアの役割は何か考えます。埼玉県内の活字や放送媒体をメインに取り上げます。また、インターネットを活用した地域発のメディアの現状とこれからの在り方も探ります。</p>
<p>日本文学史C (小林 実 准教授)</p>	<p>明治から昭和にかけての小説を中心とする文学史を学びます。教科書の内容を基本とし、さらに専門的な事柄を講義します。教養として知っておきたい作家や作品を紹介しながら、それらの時代背景、メディアの仕組み、文壇形成の条件など、「文学史」を多角的に学ぶことを目的としています。 【テキスト】『原色 新日本文学史（増補版）』文英堂</p>
<p>日本語音声学 (松永 修一 教授)</p>	<p>「音声」を素材として、学問を学ぶ上での基礎的な理論と実証によるアプローチで学問的枠組みを身につけてもらいます。IPAの記述練習、アクセントの表記、また、音響分析など実験的な作業もやりながら、学びを深めていきます。</p>

日本文学研究A (赤間 恵都子 教授)	『枕草子』の日記的章段を取り上げ、史実と対照させながら読んでいきます。そして、作品の表面からは読み取れない作者の執筆意図について考えます。なお、以前に『枕草子』の授業を受講された方は、その時の内容と部分的に重複することをご了承ください。 【テキスト】「歴史読み枕草子ー清少納言の挑戦状」三省堂
女性と文化 (加藤 暁子 准教授)	日本の芸術文化を代表する「歌舞伎」と「宝塚歌劇」を取り上げて、女性の生き方と舞台芸術を学びます。男性が演じる歌舞伎の女形、女性が演じる宝塚の男役と娘役、それぞれの舞台における“女性像”について考察していきます。
文芸文化概論 (落合 真裕 准教授)	文学、芸術作品を読み解くとはどのようなことでしょうか。世界的に有名な文学作品や芸術作品（絵画）を取り上げて研究者の解釈を紹介するとともに、それぞれのアプローチ方法について学んでいきます。資料をもとにグループに分かれて意見交換なども行います。